

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みは習熟度が高いが、書く能力に不足を感じる。また、自分の意見、考えを言語化する力が不足している。日常生活での語彙不足が一因とも考えられる。 感想や意見、自分の考えを文章で表現することが苦手な生徒が多い。 特に、音読の苦手な生徒も多く、声も小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業始めに前時の復習として、語彙を増やし、記述で答えるプリント学習、各単元の終わりに漢字の読み書きを含め、自分の考えを短作文で記述する取り組みを行う。 授業で詩や短歌など音読の機会を多くとり、各生徒ごとに助言、支援を行う。自らの音読に自信が持てるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業初めの前時の復習プリントは、漢字や語句の学力向上に効果的だった。 また、単元ごとの短作文作成は、二百字程度まで増やす必要があると判断する。 音読の練習として、平家物語や走れメロスの読み合わせは生徒の興味・関心を高める上でも有効であった。更なる工夫が今後の課題である。
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフの読み取りでは数値を読み取ることはできるが、グラフから読み取れる事象を表現することが苦手な生徒が多い。 知識を暗記することは得意だが、そのことについて説明したり自分の意見を表現することは苦手な生徒が多い。 時間の経過もあり、グループワークやペアワークなどはスムーズに取り組める。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの設問などを工夫し、グラフの読み取りを積極的に取り入れる。 提出課題だけではなく、日常の出来事と結びつけ自分ならどのように考えるかを授業で表現する機会を設ける。 引き続きペアワークなどを多く取り組み、口頭でも記述でも表現する機会を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートで資料の読み取りを実践した。まだ個人差があるが、授業内で反復し徐々に力をつけてきたと考える。 授業内で自身の考えを書く機会を多く設け、書くことへの抵抗はなくなっている。但し、理解度・習熟度は浅いため今後も課題と考える。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数、文字式、方程式などの計算はよくできている。 分数をふくむ計算問題に手が付けられない。または、計算ミスが続出している。 読解力を求められる問題に対して、そもそも手が付けられない状況にある。 記述式の問題で、問題は解けるが説明することに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業の始めに5分間の計算練習を行い、計算力のさらなる向上を図る。 定期考査や小テストに文章問題を出題し、解説など丁寧に行う。 文章問題を指導するときに絵や表、図などを用いて視覚的にわかりやすくまとめることで、キーワードを見つけやすくすることで苦手意識を無くし、スモールステップで解けるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算練習を行った結果、計算力の向上が見られた。 定期考査や小テストに文章問題や証明を入れ、解説と確認を行ったところ、少しずつ問題を解ける生徒が増えてきた。しかし、まだ苦手意識を持っている生徒が多い状態である。粘り強く指導を続けていく必要がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 知識などの暗記するものはできるが、理学的現象の理由などの説明を書くのが苦手な生徒が多い。 実験は楽しく行っているが、グラフなどのデータ処理が苦手な生徒が多い。 他の人への理学的な説明も苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由研究などを通じて、理学的現象の説明を行なうことで、苦手意識を減らしていく。 教え合い活動などにより、どこまで理解しているのか、理解していないのかをつかむ機会を増やす。そして、どのように伝え、伝わりやすいかをお互いに話し合うことで、説明方法の工夫を行うように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 理学的現象の説明に関しては、少しずつではあるが、いろいろ書こうというのが見え始めてきた。引き続き、説明を求める機会を増やしていきたい。 教え合いについては、よくできるようになった生徒とそうでない生徒の差が見られる。教え合いの機会を増やし、やろうとする生徒を増やしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱は意欲的に取り組み、知識を活用して表現する場面も見られるようになってきた。 リコーダーに関しては苦手意識があり、演奏が出来る生徒と出来ない生徒の差が大きい。 鑑賞では興味を持って聴いているが、自分の言葉で表現することに関して、雑である。 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールを目標に、学んだ知識を表現で活用することを意識させていく。 リコーダーの補習やペア学習などを行い、基礎的な奏法を身に付けさせていく。 鑑賞分野では短い文章から丁寧に書かせる指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールにおいては、状業で学んだ知識を活用し、表現活動を行えた。 リコーダーの補習やペア学習によって、リコーダーの苦手意識が少し緩和できた。 鑑賞分野においては、引き続き丁寧に指導していきたい。
美術	<ul style="list-style-type: none"> アイディアスケッチ(思考・判断・表現)でつまづく生徒が多い。 アイディアスケッチを作品に活かす際、完成までの手順や工程をうまく想像できない生徒がいる。 振り返りが制作工程に対する進捗の確認のみで完結し、自分の目標設定が曖昧な生徒や受動的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導の際、つまづきのある生徒を優先的に指導し、アイディアを形にするための支援をする。 完成までの手順や工程が想像しやすいよう、ポイント視覚的資料を用いて説明する。 毎回の振り返りを作品(思考・判断・表現)に活かすため、「何ができたか(制作工程)」だけでなく、「どのようにできたか(表現内容)」を振り返りとつなぐように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒を優先的に指導をしたり、授業中に生徒間で途中段階を鑑賞させて、活動を促すことができた。 書画カメラ、クロムブックの画像を用いて視覚的資料を提示したことで、工程について理解がスムーズだった。 振り返りと次回の目標を書かせることで、授業内に完成させる見通しが持てるようになった。振り返りを書く時間の
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動が好きな生徒と苦手な生徒が二極化しているため、運動に対するモチベーションの差が見られる。 多くの生徒は体を動かすことが好きで、積極的に授業に取り組んでいる姿が見られるが、運動のコツやポイントなどを発見したり、考えたりすることが苦手。 授業でつかんだ感覚やポイントを学習カードにまとめたり、友達に伝えたりすることが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> 場の設定を工夫して、運動が好きな生徒も苦手な生徒も達成感が味わえるようにする。 授業のねらい、学習の流れをきちんと提示し、その日に学ぶ運動のポイントやコツを意識させて授業に取り組ませる。 問題解決型学習の機会を多く設けて、ペアやグループで自分のつかんだ感覚や提案したい作戦など共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育係の指示だけでなく、周りの気づいた生徒も率先して活動した。 生徒自身が主体的に取り組み、積極的に活動をした。 自己やグループの能力を知り、適切な課題設定、及び、主体的に取り組める力を付けさせたい。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 食への関心はあるが、栄養素の種類やはたらきなど学習した内容を普段の食生活に活かすことへの定着が低い。 工具を利用する際に、日常的にモノづくりの経験が少なく、取扱いに不安を感じる生徒が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の学習内容を日常生活と関連づけて指導する。視覚教材やタブレットを活用し、関心を高めたり、知識の定着を図る。 学習した内容を家庭生活で実践できるよう長期休業を利用して課題を出す。 基本的知識と技術の習得のため、実践的・体験的な学習活動を取り入れる。 自他の安全に留意して学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらの調理実習を実施できたことが成果である。 次年度も実習内容を検討し、実施できるよう計画をする。 技術科ではChromebookやモニターを活用した授業や題材を展開した。次年度は更なるICT活用に挑戦したい。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに技能特化するスタイルの授業を行い、1学期は「書くこと」に焦点を当てた。誰が/どうする/何を/どこで/いつという5つの区分に基づいて英文を書く指導を行った。英文の語順や文章の構成は理解できるようになったが、肝心の単語で間違える生徒が多いことが課題であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語において、文字と音と意味を一致させる指導を行う。デジタル教科書を活用し、個人のペースに合わせて単語を練習する時間を設ける。さらに、全体で練習、個人でデジタル教科書を活用した練習、そして全体練習という流れを作り、文字と音と意味を一致させる指導手順を踏む。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに技能特化することで、指導目標と活動内容と評価の整合性が図られた授業を行うことができた。誰が/どうする/何を/どこで/いつという区分に基づいて記号化を行い、読むこと、書くことについて成果が見られた。話すことのやり取りでは、相手の発言を受けての適切な質問に課題が残ったため、質問を行う練習を増やしていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> D項目の実施回数が少なく、内容項目に偏りが出ている。自然や生命など抽象度の高いものに対してあまり関心をもって想像した経験がなく、自分の意見や考えを十分にもてず表現できない生徒が多いことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画を見直しバランスよく内容項目を扱う。 補助発問を多く準備したり、スモールステップでの発問を心掛け生徒の考えや意見を引き出す工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業を学年の教員でローテーション化し、年間指導に基づいてバランス良く内容項目を扱った。生徒の考えも深まるようになり、意見を出しやすくなった。書いて表現しやすい生徒が多い一方で、ペアや班の中で共有することが苦手な生徒もいるため、話し合いの進め方をマニュアル化していく。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の一環として、マイキャリアプランを考え、上級学校を調べることができた。Chromebookを活用し、必要な情報を適切に調べる力も身につけてきている。課題として、職場体験学習の調べ学習を行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験学習を2学期に実施することになり、まずは職場体験学習の調べ学習を9月に進めていく。事業所の仕事内容や、中学校から事業所への経路検索など、校外学習や修学旅行につながる学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 清瀬を語る生徒プロジェクトでは、ゲストティーチャーを迎えて6つのテーマに基づいて清瀬について学び、清瀬検定本の作成を行った。また、清瀬の魅力を伝えるマイ清瀬フォトブックの作成も行い、郷土を愛する心や、清瀬の魅力を発信する態度が養われた。進路学習も進め、3年生での取組につなげたい。